

# 「ネちからアップ」のご紹介

北海道研究農場 植物機能性研究 I グループ 小鏝 亮介

昨年は、一部地域で春先の干ばつの影響があったものの、長雨、日照不足や低温による天候不順の影響が少ない年でありました。また北海道への台風の上陸もなく、飼料用トウモロコシなども倒伏の甚大な被害がなかったと思われます。しかしながら近年は「異常気象」といわれる天候が続いておりますので、作物の安定的な栽培のために、場面に合わせた「植物活力資材」の活用をお勧めします。

## 「ネちからアップ」について

日本古来の伝統的なボカシ肥料は、肥料効果だけでなく、作物の根張りを良くしたり、徒長せずにごっしりとした草姿にしたりといった効果をもつものがあることが知られています。そういったボカシ肥料の中には多くの種類の乳酸菌が生息していることが分かってきました。そこで、乳酸菌培養液のエキスを粉末化し、種子粉衣タイプにしたものが「ネちからアップ」です。



写真1 「ネちからアップ」

使い方は簡単！播種前に、種子重量の0.3%の「ネちからアップ」を種子に混ぜていただくだけです。根の生育をサポートし、初期生育の改善が期待できます。他の種子処理用農薬との混用も可能です。液体タイプの種子処理用農薬の場合は、農薬を種子にコーティングし、生乾きになったところで「ネちからアップ」を粉衣していただきますと、きれいに付着します。粉末タイプの種子処理用農薬とも混用していただけます。いずれにせよ、種子全体に均一に混ぜてから、播種機へ投入していただくことがポイントです。

## 飼料用トウモロコシでの「ネちからアップ」使用事例

天候不順であった2018年は「ネちからアップ」を粉衣した飼料用トウモロコシで根張りがよくなり、生収量にも差が認められ、収穫期のなびきも抑制される事例が確認されています（詳細は『牧草と園芸』第67巻第1号19～21ページをご参照ください）。

昨年も試験を実施しましたので、結果をご紹介します。夕張郡長沼町における試験では、6月に初期生育段階の調査を行ったところ、「ネちからアップ」粉衣区で草丈が高い傾向が認められました(図1)。各試験区から掘り取った株の土を落としてみると、粉衣区の根張りが良好であることが確認されました(写真2)。また青森県十和田市においても、統計的な有意差は認められないものの、「ネちからアップ」粉衣区で収量が多い傾向でした(表1)。

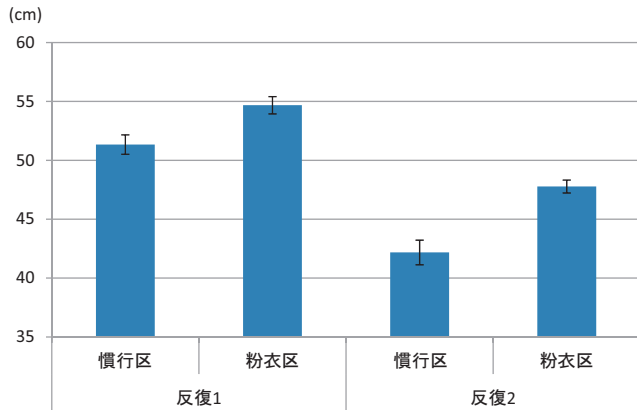


図1 夕張郡長沼町における「ネチからアップ」粉衣試験草丈調査結果 (2019年6月17日)  
※50個体の平均値、エラーバーは標準誤差を示す

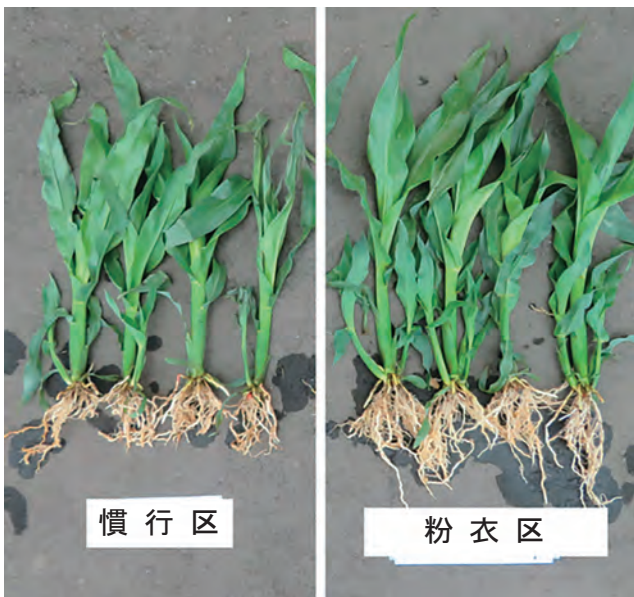


写真2 各試験区の生育状況

表1 青森県十和田市での「ネチからアップ」粉衣試験結果 (2019年)

	支根直上 稈径 (cm)	根張りの 長さ (cm)	生総重 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)
慣行区	23.1	56.9	5,720	1,409
粉衣区	26.6*	57.1n.s.	6,014n.s.	1,558n.s.

※数値は3反復の平均値を示す (t検定、n.s.:有意差なし、\*: $p < 0.05$ )

## 「ネチからアップ」使用上の留意点

飼料用トウモロコシに「ネチからアップ」をお使い頂く際に、粉衣種子を播種機ホッパへ投入する時には、種子袋の底にたまった残滓を入れないように気を付けましょう。また、不耕起タイプの播種機において、「ネチからアップ」を播種機ホッパに直接投入した場合は、効果が不安定になる場合がありますので、事前に粉衣することをお勧めします。

## 飼料用トウモロコシ以外にも

「ネチからアップ」は飼料用トウモロコシ以外の作物でもご活用いただけます。2019年に「ネチからアップ」をエダマメ種子に粉衣し、収量調査を行ったところ、粉衣区において規格内莢数が多くなり反収が慣行区と比べて10%多い結果となりました(表2)。

表2 エダマメ種子への「ネチからアップ」粉衣試験 (2019年、夕張郡長沼町)

試験区	規格内莢数/株	反収 (kg/10a)
慣行区	29 (100)	492 (100)
粉衣区	34 (117)	541 (110)

※数値は2反復の平均値を示す  
※( )は慣行を100とした時の比

「ネチからアップ」や弊社植物活力資材の商品説明や利用方法につきましては、当社ホームページから動画でも紹介しておりますのでぜひご覧ください。